

分科会 1 4 概要報告書

分科会名	分科会 1 4 これからの子ども教育と、企業や町の発展 ～子どもの社会参画が、企業や町を発展させ 子どもの力を伸ばす～		
実施日	平成 2 4 年 2 月 1 8 日 (土)	実施時間	1 7 : 3 0 - 1 8 : 3 0
会場	石楠花 1 . 2	参加人数	3 0 人
登壇者	栗栖佳子 (株式会社宙 代表取締役) 藤谷忍 (滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事) コーディネーター: 川島高之 (FJ 理事)		

概要報告書

1. 現在の子ども、地域、社会の現状について川島氏より

子ども⇒目的意識の低下, 若者の自殺増加

地域 ⇒親子関係以外のナナメの関係の減少

社会 ⇒GDP に対する学校教育費の比率の国際平均よりも低いという現実について

子ども達が社会での本番体験が減少してきている点についての指摘

2. 川島氏のコーディネートによるディスカッション

自己紹介を兼ねながらの下記の発言があった

(栗栖)

- ・社会人教育の現場で感じられる自己肯定感の低下が, 中高生の現場でも感じられる。これは承認体験の少なさから来るもの。
- ・職場体験で子ども達を受け入れる企業にも, 双方にメリットがある。(子ども) 社会とつながって気づきを得られる。(企業) 子ども達を受け入れることでマネジメント能力が高まる。企業にとって当たり前なのが子ども達にとってそうでないことを知る機会でもある。それは CSR 以外でのメリット。

(藤谷)

- ・教育委員会の生涯学習課としては, 「つながりで未来を拓く」という言葉をキーワードにしている。放課後子ども教室や, PTA 活動への支援も含め, 平日の放課後活動, 休日の居場所づくりなどにおいて, 地域の教育力の向上を目指している。教員は地域の知恵袋を活用していくことが必要。
- ・チャレンジ week (滋賀での職場体験) では, 商店街の空き店舗を子ども達の開業のために提供して下さったところがあった。子ども達が運営した店が, 商店街で一番の売上を確保したという事例もある。そんな地域のおせっかいな感じが子ども達の意欲を高めるきっかけにもなっている。
- ・よりよい学びにつながるように, 滋賀学校支援センターの学校支援メニューから様々な情報を得ることができるシステムを作っている。

<まとめ>

- ・滋賀県のキャリア教育には, 三方よしの近江商人の思想や風土がある。子ども達を丁稚として受け入れ, そして育てていくという地域の基盤が大切である。それを具現化しているのが滋賀の教育。
- ・子ども達を「数年後にビジネスの場に迎える対象」として捉え, 子ども達に語りかけ, 子ども達をパートナーとして共に企業や街の発展を目指す姿勢が求められている。